

「ステレオグラム (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

その後もステレオグラムの研究を続けている。研究といっても、身近なものや風景を写真に撮る時に、2 枚少しずらした 2 枚を撮影し、それを立体視できるか試している・・・という程度のものだ。いつの間にか、風景を撮る時に、1 枚目のあと半歩右に寄って、もう 1 枚撮るクセがついてしまった。風景だけでなく、さまざまなものが、ステレオグラムの対象になることがわかってきた。



交差法 平行法

たとえば上の写真は、虫 (マツムシの幼虫・・・だと思えます) のステレオグラムである。虫は動き回るので撮影は大変だ。しかしうまく撮影できると、まるで目の前にいるように、細部まで立体的に見えてくる。特に後肢の立体感は、感動ものである。



交差法 平行法

これは、先日北軽井沢 (応桑地区) に降った雹のステレオグラム。降雹後の地面にカメラを近づけて、ほんの数センチずらして、2 枚の画像を撮影した。気泡を含む、不透明な雹が多いので、内部の立体構造まではよくわからないが、雹全体の立体感はわかる。降雹の中で撮影したので、あまり計画的なことはできず、咄嗟に撮ったものばかりだった。もっと接写して、細部まで写しておけばよかったと、あとから残念に思った。雹をステレオグラムで研究した例は、あまりないだろう。私は、更に小さな物体のステレオグラムに挑戦したくなってきた。